

日本語から中国語へ翻訳する際の 翻訳品質向上に関するハンドブック

2017 年 3 月

中国 I P G

管理・情報専門委員会

目次

1. ハンドブックについて	3
1.1 はじめに	3
1.2 研究方法	3
1.3 中国語明細書の読みづらい理由の検討	4
1.4 日本語原文の問題点の整理	5
1.5 ハンドブックの構成	6
2. ハンドブック	7
2.1 単語	7
2.1.1 多義語〔技術分野で意味が異なる単語〕	7
2.1.2 日本独特の単語〔中国に概念がない単語〕	8
2.1.3 意味が曖昧な単語〔中国に概念はあるが訳しにくい単語〕	10
2.1.4 造語	12
2.1.5 単純変換が通用しない単語	13
2.2 特定品詞（複数の意味を含む品詞）	14
2.2.1 ～を介して（隔てる、経由する）	14
2.2.2 ～ように（目的、結果、方式）	15
2.2.3 ～し／～して（順接、状態、様子/方式）	16
2.2.4 ～で（方式、手段、理由、状態、場所等）	17
2.2.5 ～より（範囲、比較、程度、動作・作用の起点）	18
2.2.6 ～に（動作主体、時間、場所、対象、比較）	19
2.3 文	20
2.3.1 複数の意味を含む文〔修飾関係が曖昧な文〕	20
2.3.2 修飾語句が長い又は複雑な文〔修飾語句が2つ以上ある〕	22
2.3.3 長文〔3.2 には該当しないもの〕	24
2.3.4 簡略化された文〔主語/主体等の省略〕	25
2.3.5 回りくどい表現	26
2.4 その他（文法、ルール、特許表現等）	27
2.4.1 曖昧な並列語（A や B、A・B）	27
2.4.2 「若しくは」と「又は」、「及び」と「並びに」の表現	28
2.4.3 受身表現	29
2.4.4 括弧書き	30
2.4.5 「前記」等の引用基礎欠如	31
2.4.6 明細書内で統一されていない単語	32
2.4.7 閉鎖式クレームと開放式クレームの判断	33
3. 最後に	34

1. ハンドブックについて

1.1 はじめに

グローバル化にともない、世界各国に出願するケースが増えている。特に、近年の中国出願件数の急増には目を見張るものがあり、比較的多くの日系企業は中国現地代理人によって明細書を中国語に翻訳している。また、その多くは、日本明細書（日本語原文）から中国語明細書への翻訳である。このような状況の中、日系企業の中国語明細書の特徴として、読みにくい又は不自然な中国語表現になってしまうケースが発生している。このような読みにくい中国語明細書は中国審査官への心証が決して良くなく、加えて、権利化段階において記載不備の拒絶理由を指摘されるケースも発生している。

そこで、本研究では、日本語から中国語への翻訳の質向上を狙ったハンドブックを提供することを目的とした。具体的には、本ハンドブックには、日本代理人向けとして原文作成時のアドバイス及び中国代理人向けとして中国語への翻訳時のアドバイスを記載するとともに、代表的な事例を紹介する。本ハンドブックを通して、日系企業の中国語明細書の質が向上することをメンバー一同強く期待する。

本ハンドブックを作成するにあたり、中原信達知識産権代理有限公司様、林達劉グループ北京林達劉知識産権代理事務所様、北京銀龍知識産権代理有限公司様、中科專利商標代理有限公司様、永新專利有限公司様、上海專利商標事務所有限公司様、柳沈律師事務所様をはじめ多くの中国事務所様にご協力をいただいた。この場を借りて御礼申し上げる。

また、本ハンドブックは、中国 IPG（Intellectual Property Group in China、中国知的財産権問題研究グループ、在华日資企業知識産権保護聯盟）における、2016 年度の管理・情報専門委員会にて作成した。本委員会にご参加いただいたメンバーにもこの場を借りて御礼申し上げる。

1.2 研究方法

以下のステップで本ハンドブックを作成した。

- Step1) メンバーの対応できる分野から中国語明細書 38 件を選定した。また、日本語から中国語への翻訳の質を研究するため、日本を基礎出願として中国へのみ出願している案件を選定した。
- Step2) 選定した中国語明細書から中国語話者により中国語として読みづらい箇所を抽出した。
- Step3) 中国語明細書の読みづらい理由の検証を実施した。
- Step4) 中国 IPG でまとめた事例を基に、中国代理人様との意見交換会を実施した。
- Step5) 中国代理人様の意見も含め、日本語原文の問題点を整理した。
- Step6) 日本代理人向けアドバイス及び中国代理人向けアドバイスを整理した。
- Step7) 中国語明細書 38 件及び中国代理人からいただいた事例を追加し、本ハンドブックを作成した。

1.3 中国語明細書の読みづらい理由の検討

日本語から中国語への翻訳が読みづらくなる理由を検討した結果、大きく2つに分類されることがわかった。即ち、図1に示すように、日中の文法上の違いや日本語原文自体に原因がある内的要因と、それ以外に起因する外的要因の2つである。なお、外的要因としては直訳への執着、翻訳者の技術スキル又は翻訳スキル、中国代理人事務所のチェック体制等が挙げられた。

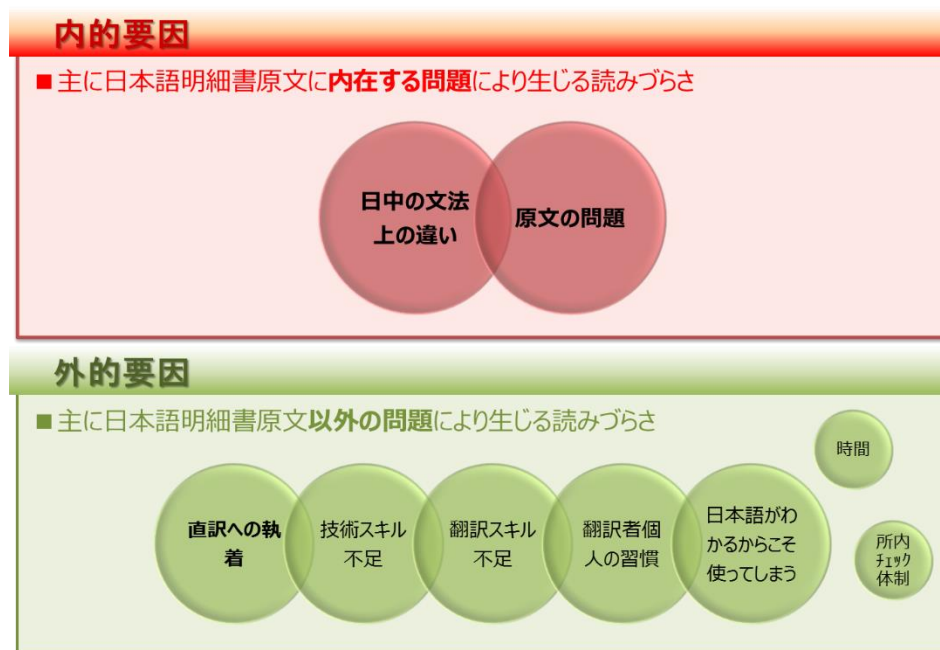


図1 内的要因と外的要因

ここで、上記 Step3) では、内的要因にのみ着目し、日本語原文の読みづらい理由をさらに大きく7つに分類した。具体的には、用語の正確性、修飾関係（係り受け）が複雑、読みづらい長文、2つ以上の意味を含む文、主語/主体等の必要要素がない文、言語習慣、その他の7つである。なお、これはあくまで中国明細書を中国語話者が読んだ際に、なぜ読みにくいのかという観点で分類している。

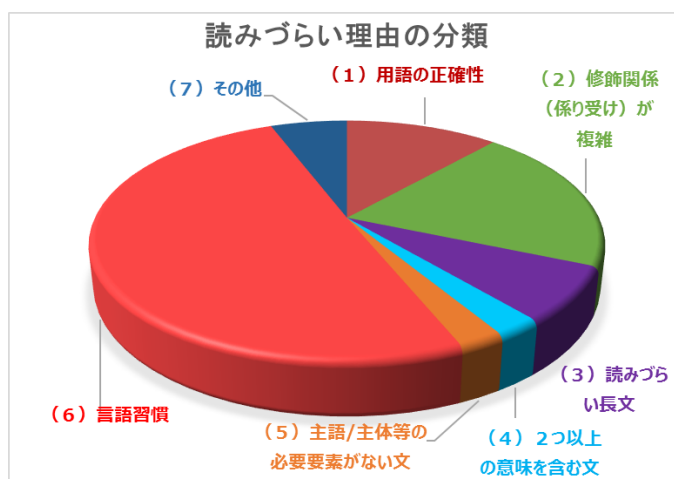


図2 中国語明細書の読みづらい理由分類

1.4 日本語原文の問題点の整理

日本語から中国語に翻訳する際に誤訳または読みづらくなってしまう日本語原文の原因を分析した。その結果、本ハンドブックでは、日本語話者にも理解していただきやすいように、文の構成の大きさを基準に「単語」、「特定品詞（複数の意味を含む品詞）」、「文」の3つに大きく分類した。「単語」、「特定品詞（複数の意味を含む品詞）」、「文」の順で文の構成が大きくなっていき、各章の中でより具体的なケースを紹介している。詳細については目次をご覧ください。

“日”：主に日本代理人向けのアドバイスの項目を示す
“中”：主に中国代理人向けのアドバイスの項目を示す

日

1.5 ハンドブックの構成

記載例) 2.2.2 ～ように(目的、結果、方式)

(1) 翻訳しづらい理由

中国語話者の視点で、翻訳しづらい理由を記載する

日本語話者は「～のように」という表現を多用する傾向があるが、実際には①目的、②結果、③方式の少なくとも3つの意味が「～のように」には含まれている。加えて、中国語にはこのような便利な表現はないため、中国語に翻訳しづらい場合が多々ある。通常、翻訳者は上記①～③の何れに該当する意味であるかを理解した上で翻訳を行っているが、明細書や図面の原文全体を読んでも本来の意味を理解しづらい場合もあり、誤訳の原因になる可能性がある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

日本代理人向けに原文作成時のアドバイスを記載する

「～のように」という表現を極力減らして原文を作成する。または、中国出願用明細書の作成時に、word のコメント/変更履歴等を活用して「～のように」の意味が何れの意味に該当するのか補足説明を加える。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

中国代理人へのアドバイスを記載する

「目的」、「結果」、「方式」のいずれの訳が適切か判断した上で翻訳する。

- ・原文の問題箇所を**赤文字**、原文修正箇所/より良い翻訳案を**青文字**で示す
- ・中国代理人との交流会を行い、その際に中国代理人からご提示いただいた事例を記載する
- ・加えて、中国 IPG に参加している日系企業が独自に抽出した事例も記載する

(4) 事例紹介及び改善案

【事例1】互いに当接する**ように**第1部材と第2部材とを設置する

改善案1) 意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

(目的の場合) 互いに当接する**という目的**で第1部材と第2部材とを設置する

(結果の場合) 第1部材と第2部材と**設置した結果**、第1部材と第2部材が互いに当接する

(方式の場合) 互いに当接する**方式で**第1部材と第2部材とを設置する

改善案2) 以下のような補足説明を word のコメント機能を用いて原文に加える。

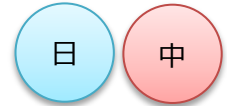
互いに当接する**ように**第1部材と第2部材とを設置する

「目的」の意味です。
明確には、「互いに当接するという目的で第1部材と第2部材とを設置する」という意味で使用しています。

2. ハンドブック

2.1 単語

2.1.1 多義語〔技術分野で意味が異なる単語〕



(1) 翻訳しづらい理由

日本語には、1つの単語であっても技術分野によって意味が異なるものがある。そのため、翻訳者が技術分野を理解せずに翻訳すると、誤訳になる虞がある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

分野を踏まえて機能的な名称を補足説明する。

名詞だけを記載するのではなく、分野毎の当該名詞の機能を補足説明する。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

日本語原文を一義的に翻訳せずに、技術分野を考慮して最適な翻訳を選択する。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例1】バッフル

改善案) 明細書作成時に、「デフレクター」や「折流板」を用いる。又は「当接板」のような機能名称を用いる。

本願において「バッフル」は、スピーカーのユニットを取り付けている板という意味である。しかし、技術分野により、「バッフル」という語句に対応する中国語が異なる。一般的な場合は中国語「挡板」で表記する。放熱器などの分野では、流路を折ることでそれを長くして、十分に放熱させる板を指し、これは「折流板」と表記する。

【事例2】ダッシュボード・ダッシュパネル

改善案) IT 通信分野であれば「仪表板・仪表盘」又は「前围板」と翻訳し、自動車分野であれば「前围板」と翻訳する。

「ダッシュボード・ダッシュパネル」は、IT 通信などの分野では、計器、グラフなどを集合して表示する部材を指すものは、中国語の「仪表板・仪表盘」、「前围板」で表記する。自動車分野では、車室とエンジン室を区画する板状部材を指すものは、中国語の「前围板」で表記する。また、自動車分野では、中国語の「仪表板」で表記する部材は、日本語の「インストルメントパネル」に該当する。

2.1.2 日本独特の単語〔中国に概念がない単語〕

(1) 翻訳しづらい理由

日本語には日本独特の単語がある。このような日本独特の単語には直接対応する中国語単語が存在しない。即ち日本語と中国語が「1 対ゼロ」の関係となっている。言い換えると、「日本語に対応する中国語単語がない」ということは、その単語に相当する概念自体が中国にはないということになり、中国語話者からすると非常に翻訳しづらいケースとなっている。

例えば「小判状／小判形」としてよく使われる「小判」という単語に関して、中国に「小判」が存在しないため、中国語に直接対応する単語がなく、直訳ができない。また、カタカナ語も注意が必要である。ここでは特に擬音語・擬声語（オノマトペ）について注意を喚起しておきたい。例えば日本語の「ガタガタ」「カタカタ」などの擬音語は、発音と意味・ニュアンスがともに全く同じ中国語の単語がない可能性が高い。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

日本語独特の単語であって、直接対応する単語が中国語にないと考えられる場合、日本語の概念の解釈を補足説明として明細書に記載しておくのが良い。特に、物の形状等を説明する際に多発する問題であるため、文章の説明だけでなく、中国審査官の理解を助けるためにも図面を加えておきたい。その他、全般的に以下に注意して日本語原文を作成すると翻訳の質向上に繋がると考えられる。

- ・日本語独特の単語を使用せずに、万国共通で意味が通じる単語を用いて説明する
- ・日本語独特の単語かどうか判断できない場合もあるため、平素より、平易な単語・表現を用いることを心がける
- ・擬音語、擬声語、擬態語（オノマトペ）は、できる限り記載しない

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

特に無し

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1】 日本語独特の単語 + 状または形（型）

改善案）日本語原文において日本独特の単語を使用しない、又は補足説明を追加する。

- (a) **蒲鋒（かまぼこ）状** ⇒ 「**半円形**」等の意味が近い単語とする。
- (b) **モナカ状** ⇒ 「**ハンバーガー状**」等の意味が近い単語とする。または、「**挟んで**」等で説明を加える。
- (c) **やぐら状** ⇒ 「**タワー状**」等の意味が近い単語とする。※「やぐら」には岩壁にあけた「穴」の意味もあり、要注意。
- (d) **小判形** ⇒ 「『**小判**』は江戸時代に流通した楕円形の金貨の一種（“小判”是日本古代流通的一种的椭圆形金币）」等の説明を加える。
- (e) **長円形** ⇒ 「**陸上競技場のトラックのような形状**」等の説明を加える。
※中国語の「长圆形」は「楕円形」の意味となる。

【事例2】カタカナ語 ～擬音語・擬声語（オノマトペ）～

改善案）擬音語を使用しない、又は翻訳時に工夫する。

ガタガタ（gatagata） ⇒ 日本語の擬声語と中国語の本来の擬声語とは発音が若干あるため、どのように翻訳しても違和感が残ることとなる。そのため、中国語として違和感があるものもあるが、例えば以下のように翻訳する。

「**咔哒咔哒（kadakada）**」； 発音は若干異なる

「**嘎达嘎达（gadagada）**」； 発音は若干異なる

「**嘎嗒嘎嗒（gatagata）**」； 発音は同じ。ただし、これは無理やり創作した単語である。

2.1.3 意味が曖昧な単語〔中国に概念はあるが訳しにくい単語〕

日

中

(1) 翻訳しづらい理由

日本語と中国語との間に対応する単語はあるものの意味が複数あったり、意味がぴったり当てはまらずに若干ずれていたりする場合がある。前者は、日本語と中国語が「1対複数」の関係であり、後者は「A対A'」のような関係である。いずれも日本語と同様の概念が中国語にはあるので中国語話者も理解はできるものの、直接対応する中国語がない。特に、請求項で使用する場合、本来の意図と異なる意味に翻訳される可能性があるため一層の注意が必要である。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

日本語原文作成時に、曖昧な単語の使用を避ける。例えば、「手前」、「直前」、「直後」、「ぶつかるほど近い」などは、直接対応する中国語がないだけでなく、意味が曖昧になってしまう。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

文脈や技術内容に応じて、適切な翻訳語を選択する。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例1】隣接

改善案) 状況に応じて、「**邻接**」又は「**相邻**」と翻訳する。

日本語の隣接とは「隣り合っている」という意味であり、互いに接している場合とそうでない場合を含む。いずれの意味となるか文脈で判断すべきである。また、「隣接」を中国語簡体字で書くと「**邻接**」となるが、これは隣り合いながら互いに接していることとなる。互いに接していない場合は「**相邻**」とすべきである。意味を考えながら、中国語を選択すべきである。

【事例2】亘る（わたる）

改善案) 「**翻訳しない**」か、翻訳する場合には「**遍及**」又は「**跨设**」と翻訳する。

日本語では「引き続く・ある範囲に及ぶ」であるが、中国語に直接該当する用語がないため、「**翻訳しない**」か、「**遍及**（遍在する）」や「**跨设**（跨る）」に翻訳する。

【事例3】一定

改善案) 「**固定**」と翻訳する。

日本語では「一つに定まって変わらない」という意味がある。そのため、「一定の間隔」という文脈で中国語に翻訳する場合、「**固定**の間隔」とすべきである。なお、「**规定**間隔」と訳した場合は、「所定の間隔」のニュアンスとなる。

【事例4】手前

改善案) 日本語原文での使用を避ける、又はどの程度手前であるかの補足説明を加える。

日本語では「目標とするものの前」という意味であり、「部材Aの手前（⇔奥）にある」などと使用されるが、「手前」にはある程度の範囲（エリア、空間）を含むニュアンスがある。一方、中国語には、このようなある種あいまいな範囲（エリア、空間）を指す単語はない。

【事例 5】 **（時間的な）直前/直後**

改善案）日本語原文での使用を避ける、又はどの程度手前であるかの補足説明を加える。

日本語では、「ある物事が起こるすぐ前/起こったすぐ後」という意味であり、「工程 X のすぐ後に操作 Y を行う」などと使用されるが、中国語にはこれに該当する単語はない。

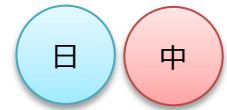
【事例 6】 **ぶつかるほど近い**

改善案 1）日本語原文での使用を避ける、又はどの程度手前であるかの補足説明を加える。

改善案 2）比較的意味の近い「**极其接近**」と翻訳する

日本語では「二つのものは非常に近接しているが、隙間がある」の意味。中国語の「极其接近」に似た意味となるが、実際どれくらい近いのか曖昧であるため注意が必要である。

2.1.4 造語



(1) 翻訳しづらい理由

日本語では名詞を複数連続させて内容を表現することが容易であるため、造語が生まれやすい。一方で、中国にはこのような考え方は基本的に無いため、日本語の造語を直訳すると誤訳になる場合や意味が通じない場合がある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

造語を極力使用しない。使用する場合は補足説明を追加する。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

明細書だけではなく、図面とすり合わせて翻訳が必要である。また原文や図面も表記していない場合、発明者と確認する必要がある。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1】照明機器と、前記照明機器の点灯制御内容を設定するためのコントローラ

改善案 1) word コメント機能等を用いて原文に補足説明を加える。また図例で説明する。

改善案 2) 造語を使用しない

照明機器と、前記照明機器の点灯を制御する内容を設定するためのコントローラ

2.1.5 単純変換が通用しない単語

(1) 翻訳しづらい理由

漢字では日本語と中国語で同じであっても、日本語と中国語で意味が異なる漢字がある。有名なものとして「手紙」があり、日本語では「レター」であるが、中国語では「トイレトペーパー」の意味になる（「レター」は中国語で「信」）。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

特に無し

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

同じ漢字でも違う意味になる場合があることを意識して、翻訳すべきである。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1】 筐体（きょうたい）

改善案) 「壳体」「外壳」「箱体」「机箱」と翻訳する。

「筐体」とは、日本語では「何らかの機能を有する機械や電気機器などを中に収めた箱のこと」をいう。中国語で表記すると「**箱体**」となるが、これは「枠・フレーム」であり、木・竹・金属など細い材で組んだ物の骨組みや囲み、という意味になる。正しくは「**壳体**」「**外壳**」「**箱体**」「**机箱**」などと翻訳すべきである。

【事例 2】 一律

改善案) 状況に応じて、「**一律**」又は「**一样**」と翻訳する。

「一律」には、日本語では 2 つの意味があり、「①すべてが同じで例外がないこと、②物事の調子が一様で変化がないこと」をいう。中国語で「一律」と表記すると①の意味になるが、②の意味は含んでいない。②の意味の場合は「**一样**」と翻訳する方が適切である。例えば、日本語「一律な速度」を中国語翻訳する場合、「**一律的速度**」ではなく「**一样的速度**」となる。

【事例 3】 進出

改善案) 「**进入**」と翻訳する。

「進出」とは、日本語では「進み出ること」をいう。中国語で表記すると「**进出**」となるが、これは「出入りすること、出たり入ったりすること」の意味になる。「進み出ること」の意味である場合は、正しくは「**进入**」とすべきである。

【事例 4】 弁体（べんたい）

改善案) 「**阀芯**」と翻訳する。

「弁体」とは、「流体を制御するために可動する部材」をいう。中国語で表記すると「**阀体**」となるが、これは不正確である。ただし「**阀芯**」とすべきである。

2.2 特定品詞（複数の意味を含む品詞）

2.2.1 ～を介して（隔てる、経由する）

日

（１）翻訳しづらい理由

「～を介して」という表現には、①隔てる、②経由する（によって）の少なくとも２つの意味が含まれている。加えて、中国語にはこのような便利な表現はないため、中国語に翻訳しづらい場合が多々ある。通常、翻訳者は上記①又は②に該当する意味であるかを理解した上で翻訳を行っているが、明細書や図面の原文全体を読んでも本来の意味を理解しづらい場合もあり、誤訳の原因になる可能性がある。

（２）日本語原文作成時のアドバイス

「～を介して」という表現を極力減らして原文を作成する。または、中国出願用明細書の作成時に、word のコメント/変更履歴等を活用して「～を介して」の意味が何れの意味に該当するのか補足説明を加える。

（３）中国語への翻訳時のアドバイス

「隔てる」、「経由する（によって）」のいずれの訳が適切か判断した上で翻訳する。

（４）事例紹介及び改善案

【事例１】部材 A の下面と部材 A の上面とが緩衝材を介して設置する。

改善案１）意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

部材 A の下面と部材 A の上面とが緩衝材を隔てて設置する。

改善案２）以下のような補足説明を word のコメント機能を用いて原文に加える。

部材 A の下面と部材 A の上面とが緩衝材を介して設置する。

「隔てる」の意味です。
明確には、「部材 A の下面と部材 A の上面とが緩衝材を隔ててする」という意味で使用しています。

【事例２】固定子 １０ A はベアリング ６０を介して固定軸 ７０に組み付けられている。

改善案）固定子 １０ A はベアリング ６０によって固定軸 ７０に組み付けられている。

2.2.2 ～ように（目的、結果、方式）

（１）翻訳しづらい理由

日本語話者は「～のように」という表現を多用する傾向があるが、実際には①目的、②結果、③方式の少なくとも３つの意味が「～のように」には含まれている。加えて、中国語にはこのような便利な表現はないため、中国語に翻訳しづらい場合が多々ある。通常、翻訳者は上記①～③の何れに該当する意味であるかを理解した上で翻訳を行っているが、明細書や図面の原文全体を読んでも本来の意味を理解しづらい場合もあり、誤訳の原因になる可能性がある。

（２）日本語原文作成時のアドバイス

「～のように」という表現を極力減らして原文を作成する。または、中国出願用明細書の作成時に、word のコメント/変更履歴等を活用して「～のように」の意味が何れの意味に該当するのか補足説明を加える。

（３）中国語への翻訳時のアドバイス

「目的」、「結果」、「方式」のいずれの訳が適切か判断した上で翻訳する。

（４）事例紹介及び改善案

【事例１】互いに当接する**ように**第１部材と第２部材とを設置する

改善案１）意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

（目的の場合）互いに当接する**という目的**で第１部材と第２部材とを設置する

（結果の場合）第１部材と第２部材と**設置した結果**、第１部材と第２部材が互いに当接する

（方式の場合）互いに当接する**方式で**第１部材と第２部材とを設置する

改善案２）以下のような補足説明を word のコメント機能を用いて原文に加える。

互いに当接する**ように**第１部材と第２部材とを設置する

「目的」の意味です。
明確には、「互いに当接するという目的で第１部材と第２部材とを設置する」という意味で使用しています。

2.2.3 ～し／～して（順接、状態、様子/方式）

（１）翻訳しづらい理由

「～し…する」及び「～して…する」という表現には、①順序、②状態、③方式の少なくとも３つの意味が含まれている。加えて、中国語にはこのような便利な表現はないため、中国語に翻訳しづらい場合が多々ある。通常、翻訳者は上記①～③の何れに該当する意味であるかを理解した上で翻訳を行っているが、明細書や図面の原文全体を読んでも本来の意味を理解しづらい場合もあり、誤訳の原因になる可能性がある。

（２）日本語原文作成時のアドバイス

「～し…する」及び「～して…」という表現を極力減らして原文を作成する。または、中国出願用明細書の作成時に、word のコメント/変更履歴等を活用して「～して…」の意味が何れの意味に該当するのか補足説明を加える。

（３）中国語への翻訳時のアドバイス

「順序」、「状態」、「方式」のいずれの訳が適切か判断した上で翻訳する。

（４）事例紹介及び改善案

【事例１】押圧部材は、支持軸を当接部材との間に保持して固定する。

改善案１）意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

（順序の場合）押圧部材は、支持軸を当接部材との間に保持してから固定する。

（状態の場合）押圧部材は、支持軸を当接部材との間に保持した状態で固定する。

（方式の場合）押圧部材は、支持軸を当接部材との間に保持することによって固定する。

改善案２）以下のような補足説明を word のコメント機能を用いて原文に加える。

押圧部材は、支持軸を当接部材との間に保持して固定する。

「状態」の意味です。
明確には、「押圧部材は、支持軸を当接部材との間に保持した状態で固定する」という意味で使用しています。

【事例２】露出した凹部の内周に隣接してリング部材が配置される。

改善案）露出した凹部の内周に隣接した状態でリング部材が配置される。

【事例３】加熱して導体層の吸水性材料の水分を除去する。

改善案）加熱することによって導体層の吸水性材料の水分を除去する。

2.2.4 ～で（方式、手段、理由、状態、場所等）

日

（１）翻訳しづらい理由

格助詞「で」には、①動作・作用の行われる場所や時間を示す、②動作・作用の行われる状態を示す、③動作・作用の手段・方法・材料等を示す、④動作・作用の原因・理由を示す、といった複数の用法があり、文章によっては、格助詞「で」が意味するところが不明確になったり、複数の意味に捉えられたりする。このため不用意に使用した助詞が翻訳者に誤って理解され、結果として誤訳を生じる可能性がある。

（２）日本語原文作成時のアドバイス

明細書を通読して複数の意味に捉えられる可能性がある場合には、「で」を単独で用いるのではなく、場所、時間、状態、手段、理由のいずれに該当するかが明確になるように書き換える。例えば、「～の場所で」、「～の手段で」、「～の状態」等の語句を補って意味を明確にする。

（３）中国語への翻訳時のアドバイス

「場所」、「時間」、「状態」、「手段・方法・材料」、「原因・理由」のいずれの訳が適切か判断した上で翻訳する。

（４）事例紹介及び改善案

【事例１】 酸素基を導入すること~~で~~、材料 X を得ることができる。

改善案）意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

（方式の場合） 酸素基を導入すること~~によって~~、材料 X を得ることができる。

（理由の場合） 酸素基を導入する~~ので~~、材料 X を得ることができる。

【事例２】 前記モータは、ステッピングモータ~~で~~構成される。

改善案）前記モータは、ステッピングモータ~~である~~。

ステッピングモータがモータの構成要素の一部であるとも、モータ＝ステッピングモータとも読み取れてしまうことに留意すべきである。

【事例３】 感光体は現像装置に対して着脱自在としているので、感光体は単体~~で~~交換可能となっている。

改善案）感光体は現像装置に対して着脱自在としているので、感光体は~~それ単独~~で交換可能となっている。

翻訳者が助詞「で」を動作の手段・方法として理解し、「…所以感光体能够以单体进行更换（单体により交換ができる）」と翻訳される可能性がある。このように翻訳されると中国語として意味が不明確となってしまう。

【事例４】 なおセンターピースは、円盤状またはドーナツ状等~~で~~成形される部材であり、

改善案）なおセンターピースは、円盤状またはドーナツ状等の~~形状~~で成形される部材であり、

中国語に直訳すると「で」に該当する語句の修飾語がなく読みにくい文章となる。状態（ここでは形状）であることを明確に記載することで適切に翻訳することができる。

2.2.5 ～より（範囲、比較、程度、動作・作用の起点）

日

（１）翻訳しづらい理由

格助詞「より」には、①比較の基準を示す、②動作・作用の起点を示す、等の複数の意味がある。格助詞「より」の後ろに形容詞が続いたときは比較を示し、格助詞「より」の後ろに動詞が続いた場合は起点を示すことが一般的である。しかし、文章によっては、格助詞「より」の意味が曖昧になる、又は、どちらとも解釈できる状態が生じうるため、翻訳者が理解を誤ると、誤訳を生じる可能性がある。

（２）日本語原文作成時のアドバイス

比較を示す場合には「も」を補って「～より**も**」とする。

起点を示す場合には「～から」に置き換える。

格助詞「より」の位置を、それが修飾する語句に近づける（⇒事例２参照）。

（３）中国語への翻訳時のアドバイス

「比較」、「起点」のいずれの訳が適切か判断した上で翻訳する。

（４）事例紹介及び改善案

【事例１】 ベース部**より**長手方向に突出した第１部材

改善案）意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

（比較の場合）ベース部**よりも**長手方向に突出した第１部材

（起点の場合）ベース部**から**長手方向に突出した第１部材

【事例２】 第１回路**より**内部側の接続点で電流を検出する

改善案）意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

（比較の場合）第１回路**よりも**内部側の接続点で電流を検出する

（起点の場合）内部側の接続点で第１回路**から**電流を検出する

（起点の場合）内部側の接続点で第１回路**より**電流を検出する

2.2.6 ～に（動作主体、時間、場所、対象、比較）

日

（１）翻訳しづらい理由

日本語話者は「～に」という表現を多用する傾向があるが、実際には、①動作主体、②時間、③場所、④対象、⑤比較の少なくとも五つの意味が「～に」には含まれている。加えて、中国語にはこのような便利な表現はないため、中国語に翻訳しづらい場合が多々ある。通常、翻訳者は上記①～⑤の何れに該当する意味であるかを理解した上で翻訳を行っているが、明細書や図面の原文全体を読んでも本来の意味を理解しづらい場合もあり、誤訳の原因になる可能性がある。

（２）日本語原文作成時のアドバイス

「～に」と言う表現を使用する場合は、「～に」の意味が誤解されないように、動詞や格助詞を適宜追加する。

（３）中国語への翻訳時のアドバイス

「動作主体」、「時間」、「場所」、「対象」、「比較」のいずれの訳が適切か判断した上で翻訳する。

（４）事例紹介及び改善案

【事例１】第１部材に保持された第２部材

改善案）意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

（動作主体の場合）第１部材により保持された第２部材

（場所の場合）第１部材において保持された第２部材

【事例２】第１部材側に回転可能に取り付けられた第２部材

改善案）意味に応じて以下のような表現で原文を作成する。

（場所の場合）第１部材側に、回転可能に取り付けられた第２部材

（対象の場合）第１部材側に向かって回転可能に取り付けられた第２部材

2.3 文

2.3.1 複数の意味を含む文〔修飾関係が曖昧な文〕

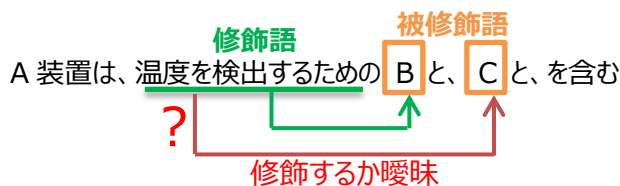
日

中

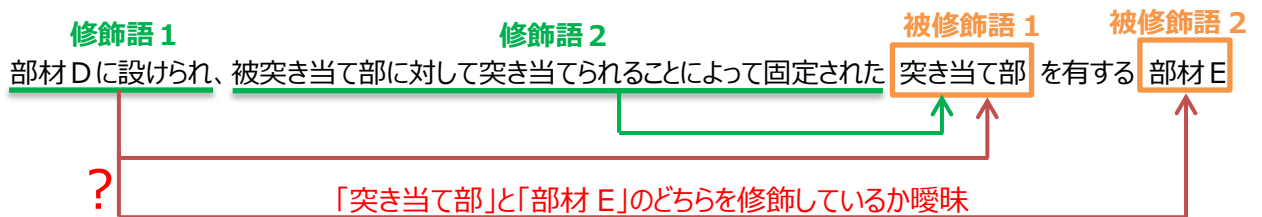
(1) 翻訳しづらい理由

日本語では、修飾語と被修飾語との関係は、「1 対 1」の関係ではなく、複数の修飾語が 1 つの被修飾語を修飾することがある。逆に、複数の被修飾語が 1 つの修飾語に修飾されることもある。加えて、修飾語と被修飾語が離れている場合もある。このようなことから、修飾関係が曖昧になる問題を招き、特許明細書として不明瞭を招来してしまう。

例 1) 複数の修飾語が 1 つの被修飾語を修飾するかどうか判断が難しいケース



例 2) 複数の被修飾語が 1 つの修飾語に修飾されるかどうか判断が難しいケース



(2) 日本語原文作成時のアドバイス

日本語原文作成時に、修飾関係が単純明快となるように気を配る。具体的には、複数の修飾語が 1 つの被修飾語を修飾することや、複数の被修飾語が 1 つの修飾語に修飾されることを避け、修飾関係が明確になるように記載する。また、修飾関係が複雑になる場合は、文を分けて記載するなど工夫する。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

技術方案を十分に理解した上で、修飾語と被修飾語との関係を見分ける。また、複雑な修飾関係がある日本語原文を中国語に直訳すると非常に分かりにくく、且つ不自然な中国語になる可能性が高い。そのため、可能な限り直訳を避け、文を 2 つに分けて記載するなど工夫する。

(4)事例紹介及び改善案

【事例 1】A 装置は、**温度を検出するための B と、C と、**を含む。

改善案 1) 修飾関係に応じて、以下のような表現で原文を作成する。本事例では、「温度を検出するための」という文が C を修飾するか否か曖昧であることが問題となる。

(温度を検出する装置は B のみである場合) A 装置は、**C と、**温度を検出するための B と、を含む。

(温度を検出する装置は B と C である場合) A 装置は、温度を検出するための B と、**温度を検出するための C と、**を含む。

改善案 2) 修飾関係に応じて、短い単文に区切って作成する。

(温度を検出する装置は B のみである場合) A 装置は、**B と C を含み、B は温度を検出する。**

(温度を検出する装置は B と C である場合) A 装置は、**B と C を含み、B と C は温度を検出する。**

【事例 2】読取部は、**隙間を介して第 1 対象と、第 2 対象と、**を読み取る。

改善案 1) 修飾関係に応じて、以下のような表現で原文を作成する。本事例では、「隙間を介して」という文が第 2 対象を修飾するか否か曖昧であることが問題となる。

読取部は、隙間を介して第 1 対象及び第 2 対象の**両方**を読み取る。

読取部は、隙間を介して第 1 対象を読み取り、**隙間を介さず**に第 2 対象と、を読み取る。

改善案 2) 読点「、」により、修飾語を区切る。なお、改善案 2 でも状況によっては修飾関係が 100%明確とならない場合もありえる点に留意すべきである。

読取部は、隙間を介して、**第 1 対象と、第 2 対象と、**を読み取る。

改善案 3) 記述順番を変更する。

読取部は、**第 2 対象と、隙間を介して第 1 対象と、**を読み取る。

【事例 3】A は B に対して**平行に固定される**。

改善案) 修飾関係に応じて、以下のような表現で原文を作成する。本事例では、A が B に平行であるのがポイントなのか、それとも A が B に固定されていることがポイントなのかを当該文章を読んだだけでは理解できないことが問題となる。

(A が B に固定される場合) **A は、B に固定されており、**B に対して平行である。

(A が B に平行であることのみを伝えたい場合) A は B に対して平行**となる方式で固定される**。

【事例 4】**部材 D に設けられ、**被突き当て部に対して突き当てられることによって固定された突き当て部を有する部材 E。

改善案) 文を分けて記載する。本事例では、部材 D の修飾先が曖昧であることが問題となる。

被突き当て部に対して突き当てられることによって固定された突き当て部を有する部材 E。**前記被突き当て部材は部材 D に設けられている。**

2.3.2 修飾語句が長い又は複雑な文〔修飾語句が2つ以上ある〕

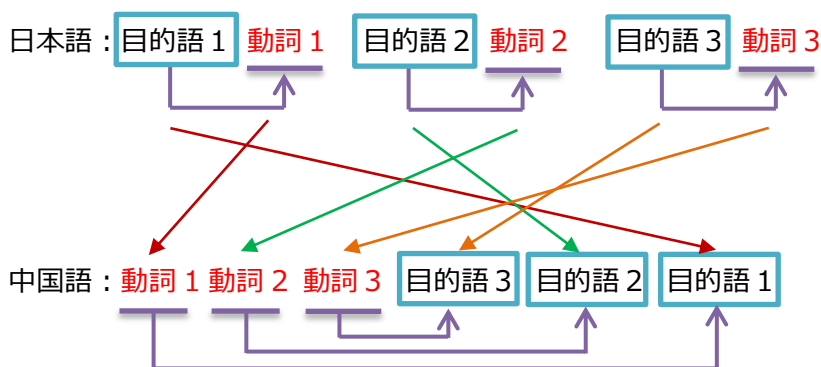
日

中

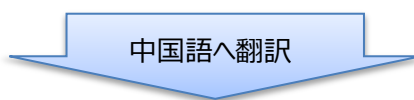
(1) 翻訳しづらい理由

日本語では、「目的語＋動詞」という語順が基本的な骨組みであり、この骨組みが幾つも繋がることで多くの情報を付け加えることができる。一方で、中国語では、「動詞＋目的語」であり、日本語と順序が異なる。また、日本語で「目的語＋動詞」が幾つも繋がる文においては、中国語が非常に複雑になってしまうという問題が発生する。即ち、日本語では「目的語＋動詞」が幾つも繋がっても、“目的語”と“動詞”が前後に位置するため修飾関係が明確である。一方で、中国語では、「目的語＋動詞」の骨組みが増えれば増えるほど、“目的語”と“動詞”の位置が離れてしまう。そのため、日本語では比較的読みやすい文であっても、中国語に翻訳してしまうと非常に複雑となり、読みにくい文になってしまうことがよくある。これに加えて、目的語に修飾語がある場合及び動詞に副詞が加わる場合は、さらに複雑な中国語としてさらに複雑な文になってしまうので注意が必要である。

【日本語と中国語の文法上の違い】



例) 空部の下流方向側で中空部を通った流体を送る流路を切替える操作が行い難くなる



很难在中空部的下游方向侧进行切换输送穿过中空部的流体的流路的操作

(2)日本語原文作成時のアドバイス

日本語原文の1文内に修飾語句が複数登場してしまう場合、いくつかの短い単文に分割することが一番好ましい。短い短文にしてしまうことで文全体の流れや意味が変わってしまう場合は、読点「、」により文を明確に区切る等の工夫をする。

(3)中国語への翻訳時のアドバイス

日本語原文の1文内に修飾語句が複数登場してしまう場合、直訳に拘わらず、技術方案を十分に理解した上で、いくつかの短い単文に分けて翻訳する。

(4)事例紹介及び改善案

【事例1】空部の下流方向側で中空部**を通った流体を送る流路を切替える**操作**が行い**難くなる

改善案) 読点「、」で文を区切る。本事例では、1文内に4つの「目的語+動詞」が登場することが問題である。「、」で文を区切ることで、「、」前後の文で登場する「目的語+動詞」の数を2つに分散させている点がポイントである。
空部の下流方向側で中空部を通った流体を送る流路**があり、当該流路**を切替える操作が行い難くなる

【事例2】**撮像送信ユニットの送信装置から無線送信された画像データを、前記撮像送信ユニットの接続相手となる受信表示ユニットの受信装置**が受信し、

改善案) 短文に分割する。本事例では、画像データ及び受信装置の修飾語が其々長く、それらが1文内に記載されて複雑な文になってしまっている。そのため、「、」により文を2つに分割し、画像データと受信装置を其々異なる文で説明していることがポイントである。

撮像送信ユニットとの接続相手となる受信表示ユニットが画像データ**を受信する。前記画像データは、撮像送信ユニットの送信装置から無線送信された画像データである。**

【事例3】前記検出ファイバーの許容曲げ半径**よりも小さい径からなる外側面を有する**

改善案) 読点「、」で文を区切る。本事例では、目的語である「外側面」の修飾語が長いことが問題である。そのため、“外側面を有する”という「目的語+動詞」を前段で簡潔に説明し、“外側面（目的語）”の詳細を後段で説明するように文を区切っている。

外側面を有し、前記外側面は前記検出ファイバーの許容曲げ半径よりも小さい径からなる。

2.3.3 長文〔3.2 には該当しないもの〕

日

中

(1) 翻訳しづらい理由

連続の動作・状態を記載するときに、読点「、」などのコンマが使われていない長文の場合、文の区切り位置や修飾関係が不明確となり、内容を理解しづらい場合がある。このような原文を翻訳すると、中国語も理解しづらい長文になってしまう虞がある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

長文をいくつかの短文に分割する。もしくは、読点「、」などのコンマを利用して、いくつかの文節に分割する。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

直訳に拘らず、コンマを活用し、または、長文をいくつかの短文に分割する。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1】前記指向性アンテナの指向方向を前記第 1 の方向の近傍以外に設定して前記第 2 の検出処理を行うときよりも前記指向性アンテナの指向角を狭く設定し、

注意) 2.2.3 ～し／～して (順接、状態、様子/方式)

改善案 1) 読点「、」を付ける

前記指向性アンテナの指向方向を前記第 1 の方向の近傍以外に設定して、前記第 2 の検出処理を行うときよりも前記指向性アンテナの指向角を狭く設定し、

改善案 2) 2 つの短文に分割する

前記指向性アンテナの指向方向を前記第 1 の方向の近傍以外に設定する。前記第 2 の検出処理を行うときよりも前記指向性アンテナの指向角を狭く設定し、

【事例 2】前記第一標識部と前記第二標識部とが前記所定の位置関係にないと前記判定部が判定している状態から前記第一標識部と前記第二標識部とが前記所定の位置関係にあると前記判定部が判定している状態へ移行したときにキャリブレーションを開始させる。

改善案) 読点「、」を付ける

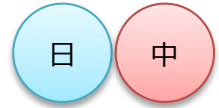
前記第一標識部と前記第二標識部とが前記所定の位置関係にないと前記判定部が判定している状態から、前記第一標識部と前記第二標識部とが前記所定の位置関係にあると前記判定部が判定している状態へ移行したときに、キャリブレーションを開始させる。

【事例 3】前記連通路の側面である前記スワール付与室内で燃料が旋回する径方向外側の第 1 側面の前記中央室側端部と前記中央室の中心とを結ぶ直線を第 1 直線とし、

改善案) 読点「、」で文を区切る。

前記スワール付与室は前記連通路の側面であり、前記スワール付与室内で燃料が旋回し、旋回する径方向外側の第 1 側面の前記中央室側端部と、前記中央室の中心と、を結ぶ直線を第 1 直線とし、

2.3.4 簡略化された文〔主語/主体等の省略〕



(1) 翻訳しづらい理由

日本語では主語/主体等が頻繁に省略されるが、中国語では主語/主体等が省略されている場合は審査官より記載不備と指摘されることがある。加えて、主語/主体等の省略で翻訳しづらいことがある。通常、翻訳者は主語/主体等が何であるかを理解した上で翻訳を行っているが、明細書や図面の原文全体を読んでも主語/主体等を理解しづらい場合もあり、誤訳の原因になる可能性がある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

主語/主体等はできるだけ、省略しないように原文を作成する。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

主語/主体等の省略が存在する日本語原文を中国語に翻訳する場合、審査官より記載不備と指摘される可能性があるとは判断できる場合は、省略された主語/主体等を理解した上で追加する。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1】**電圧の低下**が閾値未満の場合

改善案 閾値との比較対象に応じて以下のような表現で原文を作成する。

(電圧値が比較対象である場合) **低下後の電圧**が閾値未満の場合

(電圧の低下値が比較対象である場合) **電圧の低下値**が閾値未満の場合

【事例 2】**さらに下部**には、部材 3 7 a、3 7 b が延びている。**その最下部**には部材 3 9 が形成されている。

改善案 主語を追加する。代名詞を使用しない。日本語では、“何”のさらに下部であるのか、“どの最下部”であるのかを前の文との繋がりから推測することが多い。しかしながら、中国でこのような記載が請求項にある場合、拒絶理由が出される可能性が比較的高いことに留意すべきである。

【事例 3】モータは、部材 A、部材 B、部材 C、及び**これら**を収容するケースを備える。

改善案 代名詞を使わずに明確に記載する。

(収容されるのは部材 B と部材 C の場合) モータは、部材 A、部材 B、部材 C、及び**部材 B と部材 C**を収容するケースを備える。

(収容されるのは部材 A、部材 B と部材 C の場合) モータは、部材 A、部材 B、部材 C、及び**部材 A、部材 B と部材 C**を収容するケースを備える。

【事例 4】管理手段**の**制御

改善案 主体や対象を明確にする

(制御の実施主体が管理手段である場合) 管理手段**が行う**制御

(制御対象が管理手段である場合) 管理手段**に対する**制御

2.3.5 回りくどい表現

日

中

(1) 翻訳しづらい理由

回りくどい説明又は余分な説明が一部の日本語原文にある場合、中国語に翻訳したとき、不自然な中国語や中国語では一般的で無い表現の翻訳となってしまう。しかしながら、一般的な中国語表現に翻訳しようとする直訳から離れてしまう可能性があるため、翻訳者は翻訳時に苦慮している。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

必要以外の言葉を書かないこと、また意味が重複する言葉を削除すべき。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

技術内容を理解した上、正しい言葉で翻訳する。場合によって発明者と確認する必要もある。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例1】なお「センターピース」は、円盤状（円板状とも呼ぶ）または円環状（ドーナツ状とも呼ぶ）等**で成形される**部材であり。

改善案） 不要な説明を記載しない。本事例では、「～で形成される」が不要である。。

なお「センターピース」は、円盤状（円板状とも呼ぶ）または円環状（ドーナツ状とも呼ぶ）等**の**部材であり。

【事例2】歯車の歯**の如き**形状に形成されている。

改善案） 不要な説明を記載しない。本事例では、「～の如き」が不要である。

歯車の歯**の形状**に形成されている。

2.4 その他（文法、ルール、特許表現等）

2.4.1 曖昧な並列語（A や B、A・B）



（１）翻訳しづらい理由

日本語の「A や B」又は「A・B」といった中黒を用いた表現は、この「や」又は「・」がそれぞれ「and」の意味であるのか「or」の意味であるのか理解に苦しむ場合がある。また、中国語では「・」の使用する習慣は基本的でない。

また、化学物質名の表記において数詞や置換基毎の区切りを示すために「・」を用いるケースが見られ、上記の「and」「or」の意味と混同する可能性がある。

（２）日本語原文作成時のアドバイス

「や」及び「・」を使用しない。「and」の場合は「及び」、「OR」の場合は「又は」を使用する。

（３）中国語への翻訳時のアドバイス

「A や B」及び「・」がある際には、注意を払って翻訳する。必要な場合は図面を参照する。

化学物質名で「・」が日本語原文にある場合には、当該「・」を削除するか、ハイフン「-」に置き換える。

（４）事例紹介及び改善案

【事例 1】A 部材や B 部材に孔が設けられる

改善案) 「や」及び「・」を使用しない。

（及びの意味の場合） A 部材及び B 部材に孔が設けられる

（又はの意味の場合） A 部材又は B 部材に孔が設けられる

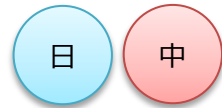
【事例 2】スチレン・ブタジエンゴムのトルエン・ベンゼンへの溶解性は…

改善案) 化学物質名については中点「・」を削除する。「及び/又は」を意味する場合は「及び/又は」に置き換える。

（化学物質名の場合） スチレンブタジエンゴムの、トルエン又はベンゼンへの溶解性は…

（及び/又はの場合） スチレン及びブタジエンゴムの、トルエン又はベンゼンへの溶解性は…

2.4.2 「若しくは」と「又は」、「及び」と「並びに」の表現



(1) 翻訳しづらい理由

日本語では、or を示す「若しくは」と「又は」の間には明確な上下関係が存在する。同様に、and を示す「及び」と「並びに」の間にも明確な上下関係が存在する。一方で、中国語にはこのような上限関係を持つ接続詞がないため、翻訳者は原文の意味を理解しづらい場合や翻訳しづらい場合がある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

「若しくは」と「並びに」の使用しない。また、使用する場合においては、意味を理解させやすいように、文の並びを変える、文を区切る、文を改行する等の工夫をする。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

翻訳する際に、全て「或（または）」や「和（及び）」等とせずに、注意を払って、図面や実施例などを通して技術内容をよく理解したうえで翻訳する。また、翻訳時に、文の並びを調整する、文を適切な位置で区切る等の工夫をする。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1】

化合物は、ア**若しくは**イを有する A **又は** B、C および D を備える。

改善案) 「若しくは」と「並びに」の使用しない。文の並びを変える、文を区切る、文を改行する。

化合物は、A 又は B **と、C と、D と、を備え、**

前記 A および前記 B は、ア又はイを有する。

2.4.3 受身表現

中

(1) 翻訳しづらい理由

日本語として問題ないが、直訳すると不自然な中国語になることがある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

可能であれば受身表現の使用を極力控えることが望ましい。ただし、日本語としては違和感のない表現のため、気にしすぎることはない。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

“被”はなくても意味が通じるなら、無理に翻訳しない。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1】シャント抵抗で得られた電圧

改善案) 通过分流电阻得到的电压

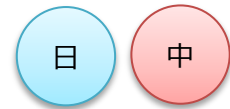
【事例 2】前記モータは、ステッピングモータで構成される。

注意) 2.2.4 〜で (方式、手段、理由、状態、場所等)

改善案) 前記モータは、ステッピングモータである。

「構成される」が無くても意味が十分通じる。さらには、本事例では、ステッピングモータがモータの構成要素の一部であるとも、モータ＝ステッピングモータとも読み取れてしまうことに留意すべきである。

2.4.4 括弧書き



(1) 翻訳しづらい理由

日本語の明細書では、補足説明や詳細説明の目的で括弧書きが使用される場合がある。しかしながら、中国語では文中に括弧書きを用いる習慣がなく、括弧書きが何を意味するのか理解できないことが多い。また、特許請求の範囲に括弧書きを用いると、拒絶理由通知が出される。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

括弧書きを用いない。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

括弧を削除し、括弧の中の記載を翻訳する。なお、PCT 出願で原文を重視する場合、括弧をそのままにして翻訳し、後に補正にて括弧を削除するやり方もある。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1：特許請求の範囲の記載の場合】 $a > b + c$ （a は、…であり、b は、…であり、c は、…である）

改善案） $a > b + c$ 、前記 a は、…であり、前記 b は、…であり、前記 c は、…である

【事例 2：明細書中の記載の場合】正確に固定（位置決め）することができる

改善案）正確に位置決めされた状態で、固定することができる

【事例 3：明細書中の記載の場合】…は、歯車の歯の形状（断面視にて略台形状）を有する

改善案）…は、歯車の歯の形状を有する。換言すれば、…は、断面視にて略台形状を有する。

2.4.5 「前記」等の引用基礎欠如

日

中

(1) 翻訳しづらい理由

日本語の特許請求の範囲では、「前記」や「上記」等の引用を意味する修飾語と引用される単語との間に、別の修飾語が入る場合がある。その場合、「前記」や「上記」等の引用を意味する修飾語が別の修飾語を修飾していると誤解される可能性がある。例えば、下記事例 1 では、「前記」が「検出した」を修飾していると誤解される可能性がある。

また、日本語の特許請求の範囲では、2 つの引用される単語をまとめて 1 つの「前記」や「上記」等の修飾語で修飾する場合がある。下記事例 2 では、引用基礎としては、「第 1 の X」及び「第 2 の X」しか存在せず、「第 1、第 2 の X」は存在しないので、引用基礎の存在しない「第 1、第 2 の X」を「前記」で修飾するのは間違いであると解釈される。

さらに、日本語の特許請求の範囲では、2 つのものをまとめて表現した引用基礎を後述する際に、1 つ 1 つに分けて、それぞれを「前記」や「上記」等の修飾語で修飾する場合がある。下記事例 3 では、引用基礎としては、「左右の Y」しか存在せず、「左の Y」及び「右の Y」は存在しないので、引用基礎の存在しない「左の Y」及び「右の Y」を「前記」で修飾するのは間違いであると解釈される。

いずれの場合も、引用基礎欠如を理由に拒絶理由通知が発せられることがある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

「前記」や「上記」等の修飾語は、引用される単語の直前に記載する。

「前記」や「上記」等の修飾語で引用される単語と引用基礎とを同じ表現で記載する。

(3) 中国語翻訳時のアドバイス

「所述」等の修飾語は、引用される単語の直前に記載する。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1】…により信号 A を検出し、…、**前記**検出した信号 A は、…

改善案) …により信号 A を検出し、…、検出された**前記**信号 A は、…

【事例 2】B は、第 1 の X 及び第 2 の X を有し、**前記第 1、第 2 の X** は、…

改善案) B は、第 1 の X 及び第 2 の X を有し、**前記第 1 の X 及び前記第 2 の X** は、…

【事例 3】C は、D の**左右に部材 Y** を備え、**前記左の部材 Y** 及び**前記右の部材 Y** は、…

改善案) C は、**D の左方に配置された部材 Y 及び D の右方に配置された部材 Y** を備え、**前記 D の左方に配置された Y 及び前記 D の右方に配置された Y** は、…

2.4.6 明細書内で統一されていない単語

(1) 翻訳しづらい理由

日本語の明細書としても好ましいことではないが、明細書内で、同一部材が異なる名称で呼称されている場合がある。翻訳者としては、単なるミスであるのか、敢えて異なる名称で呼称しているのか判断がつかない。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

同一の部材は同一の名称で呼称する。参照番号が付されている場合は、word の検索機能を用いて、同一の部材が異なる名称で呼称されていないか確認する。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

特に無し

(4) 事例紹介及び改善案

【事例 1：名称の省略】装置 1 はステッピングモータ 10 を有し……。…。**モータ 10** は、……。

改善案）装置 1 はステッピングモータ 10 を有し……。…。**ステッピングモータ 10** は、……。

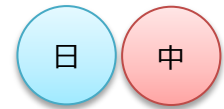
【事例 2：名称の不一致】装置 2 は、ネジ 2 0 によってフレーム 2 1 に固定されている。……。**ボルト 2 0** は、……。

改善案）装置 2 は、ネジ 2 0 によってフレーム 2 1 に固定されている。……。**ネジ 2 0** は、……。

【事例 3：名称の不一致】装置 3 はコントローラ 3 0 を有し……。……。**制御部材 3 0** は、……。

改善案）装置 3 はコントローラ 3 0 を有し……。……。**コントローラ 3 0** は、……。

2.4.7 閉鎖式クレームと開放式クレームの判断



(1) 翻訳しづらい理由

日本語の特許請求の範囲では、「～から構成する」及び「～からなる」という表現をそのまま翻訳すると閉鎖式クレームの記載になる可能性が高い。また、一部の中国代理人は、「～を備える」を開放式クレーム、「～で構成される」及び「～からなる」を閉鎖式クレームと認識している。中国の事務所によっては、「～で構成される」及び「～からなる」という表現があったとしても、明細書全体の内容を踏まえて翻訳の対応をしているところもあるが、実際にこれらが翻訳者を混乱させる表現の一つになっているのも事実である。そのため、日系企業が意図しないところで、日本語原文が開放式クレームであるにもかかわらず、中国では閉鎖式クレームになってしまっていることがあるため、注意する必要がある。

(2) 日本語原文作成時のアドバイス

閉鎖式クレームを意図する場合は「～からのみ構成する」、「～のみからなる」、及び「～のみを含む」等のように「のみ」という表現を日本語原文に明記し、閉鎖式クレームであることを明確にしておく。

中国代理人、日本代理人及びクライアント（日系企業）との間で、閉鎖式クレームと開放式クレームの書き方/表現方法について認識を合わせておく。

(3) 中国語への翻訳時のアドバイス

仮に「～から構成する」及びそれに類似する表現が日本語原文にあったとしても、閉鎖式クレーム（“由～構成”等）に一律で翻訳するのではなく、明細書全体の内容を加味して翻訳を行う。閉鎖式クレームでよいか否か判断に悩む場合は、クライアントに問い合わせる。

(4) 事例紹介及び改善案

【事例1】装置は、部材 A と、部材 B と、部材 C とを**備えて構成される**。

改善案）本事例では、「を備えて」と「構成される」の両方が含まれており、翻訳者をより混乱させてしまう点に留意すべきである。

（閉鎖式の場合）装置は、部材 A と、部材 B と、部材 C とのみで構成される。

（開放式の場合）装置は、部材 A と、部材 B と、部材 C とを備える。

3. 最後に

本ハンドブックでは、「1.3 中国語明細書の読みづらい理由の検討」で説明したとおり、内的要因に着目している。ただし、実際には外的要因を減らすことでも翻訳の質を向上出来ると考える。そのため、以下のフローに基づいて、自社の中国明細書の読みにくい原因が、内的要因にあるのか、又は外的要因にあるのか整理することをお勧めする。なお、仮に内的要因が無いにもかかわらず、中国語明細書に読みにくい／不自然な中国語がある場合は、外的要因を減らすことを検討すべきである。具体的には、中国代理人とクライアント間でどこまで直訳するか認識をあわせておく、中国代理人の技術知識が十分で無い場合は中国代理人向けの技術レクチャーの開催を検討する、中国代理人が翻訳や技術について気軽に質問できるようにクライアント側に連絡窓口を整備する等である。

特に、「直訳」と「意識」のバランスが大切であると考え。なぜならば、翻訳に適した日本語原文を作成することはできたとしても、中国語に完全に対応した日本語原文を作成すると、今度は逆に日本語原文自体が読みにくい／不自然となる可能性があるためである。そのため、中国代理人とクライアント間でどこまで直訳するか認識をあわせておくことは非常に大切である。仮にこの認識あわせが無い場合、中国代理人は、日本語原文の意味から逸れることを避ける傾向にあるため、「直訳」になる可能性が高い。即ち、読みにくい／不自然な中国語明細書になってしまう可能性が高い。

今回、日本語原文の改善の色が強い本ハンドブックとなっているが、内的要因及び外的要因のどちらか一方ではなく、双方向からアプローチして翻訳の質を改善していくのが最も大切であると考え。

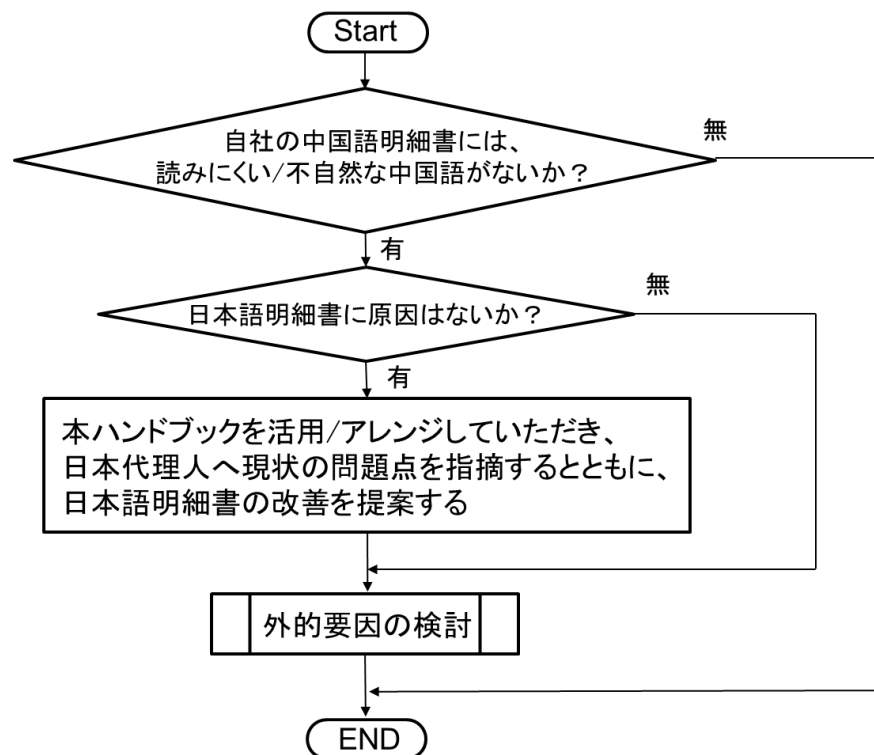


図3 中国語明細書の読みにくい原因分析フロー